



生涯学習センターだより

2018. 10. 30(火) 10月号 (2018年度第4号: 通巻21号)

発行: 秋田県生涯学習センター

あきたスマートカレッジ レポート ～官・民・学連携講座【移動学習】編～

県機関や地域の大学・企業がもつ専門分野や教育資源を生かし、地域が抱えている課題について理解を深めるとともに、「秋田のいま・これから」を考える講座が「官・民・学連携講座」です。この講座の特徴は、当センター内での座学形式のほかに、内容によっては連携する機関や大学等に出向き、実習や演習、見学やワークショップなどの体験学習を実施するところにあります。今号では、シリーズの8回目に当たる「あきた伝統野菜のいま・これから～見て、触れて、食べて!?あきた伝統野菜を理解する～」を紹介しします。

10月19日(金)、受講者は秋田県立大学秋田キャンパスに集合し、始めに生物資源科学部生物生産科学科准教授の櫻井健二先生から秋田の伝統野菜について教えていただきました。私たちが普段食する野菜のほとんどは、実は外国にルーツがあり、もともと日本に自生していた野菜は意外と多くないことから話は始まりました。そうした中であって、伝統野菜は世代を超えて地域の栽培者が自家採種によって栽培・保存を続けてきたもので、秋田県においても現在30品目の野菜が知られているとのことでした。講座の後半では圃場を見学させてもらい、実際の栽培の様子を説明していただいたほか、野菜の収穫体験もさせていただきました。受講者の皆さんの意欲溢れる活動の様子は、とても印象的でしたし、感想からも楽しさが伝わってきました。

櫻井先生はまともとして、伝統野菜を将来に残すには単に保存するだけでなく、産業として流通し消費してくれる人がいることが大切であり、生産者も消費者も、食文化を学び知ることによりよいものが残っていくことと強調されました。「人生の先輩として、若い後輩たちに地域の食文化を引き継いでほしい」これが、受講者の皆さんへの先生からのメッセージです。爽やかな秋晴れの下、官・民・学連携講座のよさを実感できた移動学習となりました。県立大学、櫻井先生に心から感謝を申し上げます。



県立大学の圃場にて



11、12月の講座等開催予定

会場：秋田県生涯学習センター ほか
(有料講座の受講料は1回420円です)

●あきたふるさと講座(有料)

- 【県民読書おすすめ講座～女流作家作品を読む】 [10:00～11:30]
- 11月3日(土) ○渡辺喜恵子『馬淵川』
～直木賞受賞作～
- 12月8日(土) ○杉田瑞子「北の港」
～芥川賞候補作～
[講師] 秋田工業高等専門学校
人文科学系
教授 石塚政吾 氏

- 【秋田の地域史】 [13:30～15:00]
- 11月10日(土) 【特別企画】北前船日本遺産登録
～北日本世界の広がりの中で～
[講師] 秋田大学教育文化学部
教授 渡辺英夫 氏
- 12月15日(土) 【東大史料編纂所】
明治維新150年
～ガラス原版写真から見た幕末
・明治日本の原風景～
[講師] 東京大学史料編纂所
所長 保谷 徹 氏

【あきた温故知新～風土・民俗・文化～】

- [10:00～11:30]
- 11月10日(土) ○秋田の食文化のゆくえ～郷土食
と甘味嗜好の経年変化～
[講師] 秋田大学教育文化学部
糊糰 佐々木信子 氏
- 12月15日(土) ○近世秋田人の娯楽と習俗～祭り
・芝居・年中行事～
[講師] 歴史科学協議会
会員 金森正也 氏

●官・民・学連携講座(無料)

- 【あきたチャレンジゼミ】 [10:00～11:30]
- 12月1日(土) **あきぎん長生き学校**
八郎太郎と辰子姫を追いかけて
～三湖伝説と平安の十和田大噴火との関連～
[講師] 総務省地域力創造
アドバイザー
五十嵐 経 氏

平成30年度秋田県生涯学習・社会教育研究大会(兼)行動人交流集会開催のお知らせ
○開催日 平成30年11月6日(火)
○講演 テーマ「地域の教育資源の再発見」
講師 文教大学人間科学部
教授 金藤ふゆ子 氏

●特別企画(無料)

- 【恋と芸術の女流文学～北条常久特別講座～】 [10:00～11:30]
- 11月13日(火) ○『青鞥』～平塚らいてふの人生
と考え方にふれる～
- 12月18日(火) ○『かの子療乱』～岡本かの子と
夫・一平、息子・太郎～

今回は、生涯学習・社会教育関係者研修の中から、10月5日に湯沢市で実施した「地域活性化研修③」と10月19日に実施した「家庭教育支援チーム・リーダー養成講座③（兼）サポーター養成講座③」の様子を紹介いたします。なお、当センターのホームページにも研修レポートを掲載していますのでご覧ください。

生涯学習・社会教育関係者研修 実施レポート③

○10月5日(金)「地域活性化研修③（県南編）」

県内各地を訪れ、学びを生かした地域づくりの理解を深めるこの研修に県内から34名が参加。地域の教育資源を視聴覚教材として残す活動について実際の取組事例を通して学ぶことができました。

始めに、当センターの糸田社会教育主事が「学びを生かした地域活性化を推進する意義」の講義を行い、この研修の目的を確認しました。続いて、湯沢雄勝地域を中心に活動しているグループ「メディアバンクみるわーく」（以下、みるわーく）の村川慎一代表からみるわーくのこれまでの取組についてのお話をいただきました。

みるわーくは視聴覚教育による生涯学習支援を目的としたボランティア団体であり、地域の歴史・文化や自然を、写真や映像を用いた教材として制作する活動を20年にわたって続けています。村川代表は、中央にはない、その地域に根ざしたものを教材として取り上げ続けること、さらには活動がすべて地元の有志によって継続されていることの意義を強調される一方、ボランティア団体として限られたスタッフや予算で活動することの困難さ、制作した教材の活用方法といった今後の課題、継続することの難しさにも言及されました。

次に、みるわーく会員である小野勝さんの「仙道番楽だより」と、中川文子さんの「佐藤信淵ヒストリー」を視聴しました。「仙道番楽だより」は、仙道地域（羽後町）の伝統芸能を継続して取材した作品であり、舞台の様子だけを紹介するのではなく、普段の練習風景や、番楽に取り組む人たちの生の声も重視した作品でした。「佐藤信淵ヒストリー」は、羽後町の偉人である佐藤信淵の生涯を紙芝居風にまとめ、教材としての価値が高い作品でした。作者の中川さんは、「ビデオ教材にすることで作品を膨らませ、より視覚的にわかりやすくてできる」とコメントしていました。

作品の視聴後は、湯沢雄勝広域交流センター内にある視聴覚ライブラリーを見学し、参加者は作品の豊富さに驚いていた様子でした。



みるわーくによる発表風景

家庭教育支援指導者等研修 実施レポート①

○10月19日(金)「家庭教育支援チーム・リーダー養成講座③ （兼）サポーター養成講座③」



参加者と対話しながら講義する中村先生

今回は、「地域ぐるみで取り組む家庭教育支援のために」というテーマでリーダーとサポーターと一緒に研修する機会となりました。

講師は、文京学院大学保健医療技術学部看護学科教授の中村由美子先生です。先生は講義の中で「子育てにおける地域の支え合いへの期待は高いが、実際には少子化や近所付き合いの希薄化などにより、子どもの実態や親が悩んでいる実態を私たちが把握するのは困難である」ことを指摘。そのため、子育てにイライラしたり、子育てを楽しめなかったりという親の心理を理解する上では、「子どもの発達課題」や「ライフサイクルから見た家族の発達課題」について支援者側が知っておくことが重要であるとし、乳児期から成人期にいたるそれぞれの段階に応じた発達課題の学習や支援の在り方について、具体例を挙げながら説明されました。また、「相手を“見る”の

ではなく“観る”」「聞く”や“訊く”ではなく“聴く”という行為の違いにもふれ、親と子どもとの間でこのような基本的コミュニケーションができるようにサポートすることの重要性について強調されました。午後は、ワールド・カフェという手法によるグループワークを実施。「地域の人材育成と活用を考える」というテーマで、積極的な話し合いが行われました。カフェのような雰囲気ですら人数に分かれたテーブルごとに自由な対話を行い、他のテーブルとメンバーをシャッフルしながら対話を続け、参加した全員の意見を集めるこの手法で、会場内は終始和やかな雰囲気のまま研修は進められました。受講者からは、「活動を広く知ってもらふ必要性、広報の仕方、地域のイベントを活用した人材確保と育成の手法など、参考になった」「“人材がない”と考えるのではなく、少しでも家庭教育支援の活動に参加していただけるように努力したい」などの感想が寄せられました。次回の研修は、11月30日に公民館等職員研修との合同開催を予定していますので、奮ってお申し込みください。